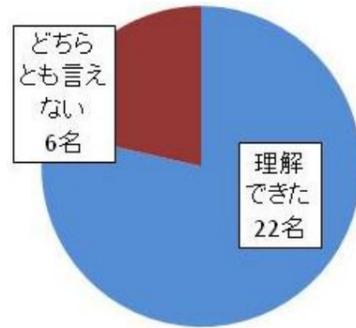
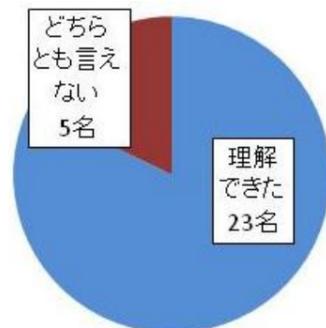


■感想 (参加者のみなさんからいただいた感想カードの集計結果の一部をご紹介します。)

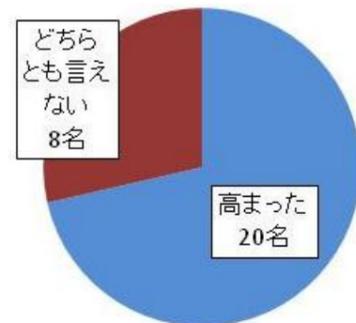
Q 住民全体の防災まちづくりの取り組みについて



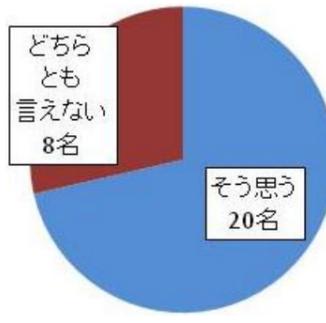
Q 「自助」、「共助」、「公助」の役割について



Q 本日のワークショップに参加し、防災の取り組みに対する意欲は?



Q 今後も防災まちづくりについて学校や地域で話していきたい?



《主な意見》

- 地震が来た時のために、自分の家でも早く「防災バック」をつくらうと思いました。(松林中2年生)
- 火を目の前にしたときは、思わず逃げたくなりました。(松林中2年生)
- ゴウゴウと音を立てて燃える炎を見て、改めて火災の恐ろしさに気づかされました。(松林中1年生)
- ブロック塀はとても重く、大人5人でも持ち上げることが大変だと分かりました。(松林中2年生)
- テレビでは消防の方などが映っているけど、その前に地域の方が助けているということが分かり、「共助」は大切だと思いました。(松林中1年生)

■ワークショップの今後の予定 まだ参加されていない方のご参加も、お待ちしております!

回数	日付	時間	概要
第1回 (終了)	平成27年11月21日	9:30~12:00 (150分)	地域の状況等の説明/加藤先生からの講演/体験学習
第2回	平成27年12月20日	9:30~12:00 (150分)	地域のまちづくり活動について/まちあるきをしてみよう! 地域の特徴と防災上の課題を話し合ってみよう!
防災フェア	平成28年1月17日	13:00~16:30	2016防災フェア ~見て!聞いて!話そう! 知っていますか? 私たちの地域防災~
第3回 (予定)	平成28年2月20日	9:30~12:00 (150分)	地域のできるまちづくり活動について、検討しよう!
第4回 (予定)	平成28年3月13日	9:30~12:00 (150分)	アクションプログラムをつくってみよう! 防災まちづくりワークショップのまとめ

自助(個人)・共助(地域)の視点から防災まちづくりについて考えてみませんか?

松林地区「防災都市づくりワークショップ」ニュース Vol.1



「防災都市づくりワークショップ」がスタート!

茅ヶ崎市では、東京大学生産技術研究所の加藤孝明准教授のご協力のもと、平成21年度から「防災都市づくりワークショップ」を実施し、地域のみなさんと一緒に災害に強い都市づくりを進めております。

今年度は、松林地区のみなさんと一緒に、全4回のワークショップを実施してまいります。ワークショップでは、松林中学校の多くの生徒の方々に参加していただき、松林地区のまちづくりについて考えます。

1回目の今回は、「防災まちづくりとは何か」について、体験学習などを通じて学びました。

～第1回 松林地区「防災都市づくりワークショップ」で行ったこと～

《はじめに》

あいさつ 松林地区自治会連合会 細田会長

プログラムの説明 茅ヶ崎市 都市部 都市政策課

《レクチャー》

「地域から進める防災“も”まちづくり」 講演 東京大学 生産技術研究所 加藤 孝明 准教授

《地区の概要説明など》

・松林地区防災もまちづくり研究所の設立について
・松林地区の市街地の状況について

《体験学習》

ブロック塀の倒壊/火災体験など (松林中学校 校舎北側にて)

《閉会》

次回予告

■松林地区自治会連合会 細田会長のごあいさつ



日頃は、地域のことに色々ご協力いただきましてありがとうございます。

普段より自治会を中心とした地域の連合会で総合防災訓練を行っており、松林中学校の生徒のみなさんにもたくさんご参加いただいております。

我々大人の目線というのは、どうしても既成概念にとらわれやすいことがあります。中学生のみなさんには、新鮮な目で、目線が変わったところから全4回をとおして防災というものを見ていただき、ストレートな意見をうかがっていきたくと思います。

みなさんと一緒にまちづくりを進めていきたくと思いますので、よろしくお願いたします。

■松林地区「防災もまちづくり研究所」設立！

今年度のワークショップでは、中学生のみなさんと大人の方が一緒になってまちづくりについて考えるための組織として、東京大学加藤研究室附属「松林地区防災もまちづくり研究所」を設立しました。参加者のみなさんは、5つの研究室に分かれて、各テーマに沿ってアイデアを出していただきます。今回は参加者のみなさんに研究員としての任命書が加藤先生から手渡されました。



写真：参加者に手渡された「任命書」



写真：研究員の任命式の様子

■地域から進める防災“も”まちづくり（加藤先生からの講演）

阪神大震災では、8割方は地域の手によって救助された。だから、自助・共助が重要なんです！

テレビで災害の状況を見ると、消防や警察、自衛隊が救助している姿が映るため、一般には「やっぱり公助がやってくれるのだ」というふうに思われています。しかし、それは報道カメラが現地に入れるようになった後の姿であり、実際には8割方の人は地域の人に助けられていたのです。



～加藤先生の略歴～

- ・東京大学生産技術研究所都市基盤安全工学国際研究センター 准教授
- ・専門分野は、都市計画、まちづくり、地域安全システム学

《主な社会活動》

- ・日本建築学会：都市計画本委員会委員、都市防災マネジメント小委員会主査（2007-現在）
- ・東京都：防災会議地震部会（2011）、火災予防審議会委員（2005-現在）
- ・地域安全学会：理事（2009-現在）
- ・防災まちづくり支援システム普及管理委員会・委員長（2004-現在）



など

《防災の3つの基本》

1)人間の本质を理解する

危険性はわかっているけれど、まあ大丈夫だろうと思うのが、とても人間らしい人間です。真正面から防災だけを取り上げて、何かをしようというよりも、防災“も”まちづくりとして、何かと抱き合わせて防災と一緒に考えていくということが重要です。

2)自助・共助・公助のあるべき姿を理解する

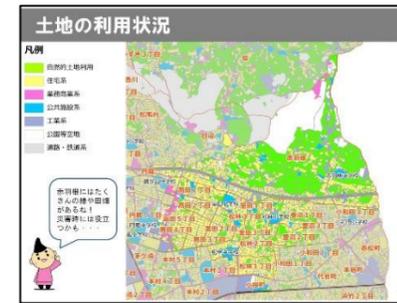
「自助・共助・公助」と言えば、みんなで頑張れば素晴らしい社会ができそうな錯覚に陥ります。持続的な自助・共助の実現のためには、自分の地域で起こりえる被災状況を理解し、お互い何をどこまでやるのか、役割分担を理解することで、やるべきことが見えてきます。

3)災害のイメージを高める

過去の災害から学びすぎることは良くありません。災害発生時の季節や時間など、条件が変われば違う被災状況になりえます。そのため、過去の災害を、今の時代・自分の地域に即したイメージに翻訳する作業が必要です。

■地域の危険性について学びました！

土地利用や道路の幅といった松林地区の特徴を踏まえ、火災や建物倒壊、道路の閉塞など、災害時の危険性について学びました。



■体験学習（ブロック塀の倒壊、火災体験など）

松林中学校の校舎北側に移動し、火災が起きた時の炎の熱さ、地震によって倒壊したブロック塀の重さなどを実際に体験しました。

◆屋根までの高さが2mの小屋を、通電火災を想定のもと実際に燃やし、炎がどれほど熱くなるのかを体験しました。炎の高さは約4m、実際の住宅に置き換えると8m位の炎の高さになるとのことです。また、消防隊による消火の実演も行われました。



↑ 炎は、暖かいと思っていたら急にやけどするくらい熱くなります。

消火には時間がかかりました。↓



大勢の大人が協力してようやく持ち上がりました。↓



助けてくださいー！

※ブロック塀に挟まってしまった人(人形)

↑ 男子中学生4名でも倒れたブロック塀はなかなか持ち上がりませんでした。

■第1回ワークショップの振り返り（加藤先生）

室内で勉強することも大事だけれども、百聞は一見にしかず、実物を見るということ、体験学習は非常に良かったと思います。しかし、体験してわかった気になってしまわないようにして欲しいと思います。

今日の体験も頭に入れつつ、実際のまちを眺め、ここで災害が起きたらどんなことが起こりそうか、正しく想像できるようになってもらい、このワークショップをきっかけとして、みなさんからのアイデアが地区に新しい動きをもたらすようになれば良いと思います。